

## 実施報告「子育て支援ノーバディズ・パーフェクト・プログラム」

### 第2回ノーバディズ・パーフェクト・プログラム総括

—広島県・財団法人ひろしまこども夢財団・広島文教女子大学心理教育相談センター共催—

小早川 久美子<sup>1</sup>

(心理教育相談センター長)

#### 1. はじめに

##### 開催までの経緯

ノーバディズ・パーフェクト・プログラム(以下NPプログラムと略)開催第2回目は、財団法人ひろしまこども夢財団から一緒に企画開催しませんかとお声をかけて頂いたことに始まります。

日本私立学校振興・共済事業団「平成19年度子育て・ものづくり支援」事業での助成金、並びに本学学長の支援を得て、第1回目は2007年に開催しています。その後2回目開催の見通しは、立っておりませんでした。そこにお声をかけて頂きましたので、喜んでお受けした次第です。

##### 執筆者紹介

今回、第2回NPプログラムに携わった方々が、それぞれその立場から寄稿して下さいました。以下ご紹介させていただきます。

##### (1) 広島県・財団法人ひろしまこども夢財団

広島県・ひろしまこども夢財団は、実は県におけるNPプログラム実施の先駆者でした。数年前から各地で何回も開催しておられます。それだけでなく、子育て支援事業も数多く実施しておられました。NPプログラムは、10数人程度に人数を制限しているプログラムですので、どうしても効率という点からいうと芳しくありません。しかし、一人の母親の成長を大事にする、個を大事にするという姿勢で、情熱をもって取り組んでおられました。さらに、ひろしまこども夢財団がスポンサーのラジオ番組に学生を出演させて頂いて託児体験を語るなど、大学と学生を社会に結びつけて下さいました。

##### (2) ファシリテーター

ファシリテーターは、子育て支援サークル元気発信隊代表の金子留里先生です。フリースペースを主宰しながら、講演活動や執筆活動と幅広くご活躍です。子育て中の母親を支援したいという熱い思いが伝わってこられる方です。なお、サブのファシリテーターとして当時本学の相談員であった田中良枝が入らせて頂き、ご指導もして頂きました。

##### (3) 託児スタッフ

縁の下の力持ち託児スタッフですが、塩成聖恵先生をはじめ3名の方がお引き受け下さいました。通常の託児ではなく、学生が託児するのを見守り励ましながらの託児ですので、エネルギーを要し大変だったと思います。さらに塩成先生には、学生のために、事前講習会もご指導頂きました。託児に不安のあった学生自身が笑顔になり、少し自信がつき、子どもに会うのを楽しみにする

---

<sup>1</sup> 広島文教女子大学人間科学部心理学科教授

と変化していきました。

#### (4) 学生スタッフ

学生スタッフは、学部学生の子育て支援サークル「パパ・ママ応援団ぶんこ」の代表森井奈津子さんにお願ひし、呼びかけてもらいました。結果的には全員心理学科4年生10名となりました。就職活動や卒業研究などと並行して大変だったようですが、責任をもって休まず参加してくれました。

#### (5) 運営スタッフ

運営スタッフは、通常の相談業務もこなしながら、安全で安心する温かな雰囲気づくりに裏方で精を出しました。

### 2. 実施概要

(1) 主 催：広島県・財団法人ひろしまこども夢財団・広島文教女子大学心理教育相談センター

(2) 開催日：2008年10月9日(木)・16日(木)・13日(木)・20日(木)・27日(木)・11月6日(木)・13日(木)・20日(木)・27日(木) 全8回  
いずれも10:00～12:00

(3) 場 所：広島文教女子大学心理教育相談センター2階

(4) 参加者：14名(0～3歳の子どもを育児中の母親)

子どもは16名(8カ月から4歳11カ月まで)

(5) スタッフ(敬称略)

ファシリテーター：金子留里(NPジャパン認定ファシリテーター)、田中良枝、2名

託児スタッフ：塩成聖恵(代表)、井上正子、中田珠光、藤田弘香、4名

学生託児スタッフ：森井奈津子(代表)、坂崎友美(副代表)、上谷悦子、小田香織、郷原真弓、近藤麻歩、平井清花、三上奏子、山田紀子、村上友美、10名

運営スタッフ：広島県こども家庭課、ひろしまこども夢財団 角田寛治課長、ひろしまこども夢財団 原田真希子、小早川久美子、佐伯麻衣、濱田さつき、5名

### 3. 第2回NPプログラムの特徴

#### (1) 大学と広島県・ひろしまこども夢財団との共催

本学は、地域支援に力を注いでいます。地域の方々にお役に立てることと、学生が地域の方を支援することによって、学生自身も体験的に学ぶことができることを目指しています。今回は、乳幼児と接する機会が少ない学生達がNPプログラムで託児を担当することで、子どもと触れ合い多くのことを学ぶ機会となりました。また、県は、育児中の母親を支援すると同時に、次世代の母親である学生を育てるということも考えて下さったようです。お互いが連携・協働することになり、さらに大きな子育て支援の輪が力強く広がることを目指しました。

#### (2) 託児ボランティアでの学生の学び

乳幼児と接するのが初めての学生もあり、事前学習として、ファシリテーターの金子先生のご厚意で、主宰されているオープンスペースに参加することとした。また、事前講習会を開催しました。事前講習会では、保育士で託児スタッフ代表の塩成さんが講師をして下さり、クイズ形式で楽しみながら、子どもの託児をする際の留意事項や抱っこの仕方などを教わりました。さらに、事後学習として、毎回NPプログラム終了後にアフターミーティングが開かれました。ファシリテーター

ター、託児スタッフ、学生、運営スタッフが参加して、毎回30分～40分かけて、計8回実施されています。

### (3) 母親による自発的グループの結成

NPプログラム終了後、参加されたお母様達は引き続き、メンバー同士で集まりたい、自分達で自主的活動をしたいという意欲が高まったようです。そして、心理教育相談センターに場所提供を申し出て来られました。センターとしては、喜んで広いプレイルーム2と相談室の提供をいたしました。日程は、NPプログラムが開催された日程と同じ木曜日10:00～12:00までです。結局、12月から3月まで開催されました。子どもの幼稚園入園や母親の復職などもあり、発展的解消となったようです。母親主催でクリスマス会が開催され、ファシリテーターや学生も招待され、総勢25名でにぎやかに交流がもたれました。

### 4. 終わりに（謝辞とその後）

NPプログラムに関わってくださった方すべてに心よりお礼申し上げます。母親の子育てを支援するということで集まった私たちが、同じ目標を共にすることによってお互いが支えられ、つながり、自分も変わっていくという体験をすることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、平成21年12月現在、第3回NPプログラムが無事終了しております。第3回は心理学科と心理教育相談センター共催で開催いたしました。毎回予算が確保できずに、次回は未定という状況でしたが、子育て支援への想いが人とお金を集めるのでしょうか、継続することができております。

### ※ 参考資料

#### (1) 「学生が託児参加、親ごころ育む」『中国新聞』 2008年11月15日(土)

2008年(平成20年)11月15日(土曜日)
中国新聞

**県と夢財団 県内大学で子育て講座**

## 交流の学習効果期待



県とひろしま子ども夢財団が県内の大学と協力して開催する子育て講座で、大学生が託児スタッフとして参加する試みが始まっている。次代の親育てを助ける県と子どもの触れ合いによる学習効果を期待する大学側のニーズが結びついた。来年度からはさらに参加校を広げていく予定だ。

(明知集) 子育て中の母親たち 体験を共有する育児支援が、それぞれの悩みや 据プログラム、ハバ

ディーズ パーフェク  
なを子どもは入大  
学生の共働き、入場  
も大学に送ることに  
した。

本年度の参加校は、  
広島文教女子大(広島  
市東区北区)と鈴鹿女  
子大(四国)。十月  
か週一回、全八回の  
講座では、学生が託  
児をしながら、親  
サビを身につけてこ  
とにした。

広島文教女子大で  
は、毎回大人数の子  
どもを二時間預かる。  
学生は一人ずつ子  
をを受け持ち、おも  
で一緒に遊んだり、食  
事やおむつの世話  
をします。

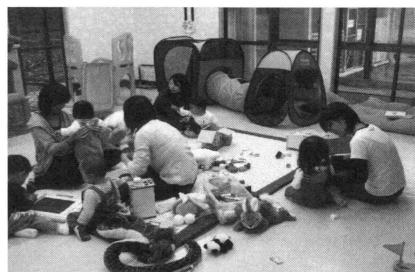
「遊ぶのもおむつ替  
え、すべてが初めて  
だった」と臨床心理士  
を目指す心理学科四年  
生小田香織さん(22)。  
これまで数回の託児を

体験し、「親子の関係  
を築くという目標で  
きた」と目の薬化  
を語る。

同大の小早川久美子  
教授(60)は臨床心理  
士について、学生たち  
の理解や感じ方を探  
っていること、実際の  
学芸会を演習する。  
県と子ども家庭課は、  
世代の親とほいこの  
期待も寄せている。

## 「学生が託児参加 親心はぐくむ」

(2) 託児の一場面



(2) 参加者募集のちらし

初めての、広島県・(財)ひろしまこども夢財団・広島文教女子大学の  
コラボレーション企画

# ノーバディズ パーフェクト プログラム Nobody's Perfect Program

完璧な親なんていない！  
0歳から3歳の子どもを持つ親のための子育て応援講座です。

参加型

NP-Japan ファシリテーター (金子)

NP ファシリテーター・臨床心理士 (田中, CCC)



広島県の子ども 元気いっぱい  
キャラクター「イクちゃん」



© Hiroshima Burkyo,  
Psycho-Educational Counseling Center 2007

日 時: 2008年10月9日(木)・16日(木)・23日(木)  
30日(木)・11月6日(木)・13日(木)・20日(木)  
27日(木) 全8回 いずれも10:00~12:00

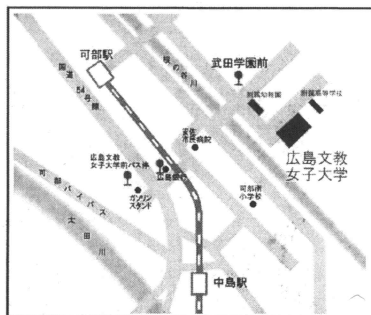
場 所: 広島文教女子大学心理教育相談センター  
2階 演習室

参加費: 1,000円(全8回分の茶菓代・実習材料費)

対象者: 0~3歳のお子さんを育てている方で、  
全日程に参加できる方(無料の託児あり)

定 員: 先着14名(大人のみ)

駐車場: あり



## — お申し込み方法 —

①お名前 ②ご住所 ③連絡先 ④サークルに所属の方はサークル名 ⑤託児を希望される方は  
託児の申し込みをお書きのうえ、郵送・FAXのいずれかでお願ひします。

**2008年9月8日(月)締め切り**

【お申し込み・お問い合わせ先】

財団法人 ひろしまこども夢財団

〒730-8511 広島市中区基町10-52 広島県こども家庭課内 Tel&Fax 082-212-1007

【主催】 広島県・財団法人ひろしまこども夢財団・広島文教女子大学